

教育研修



No.148 (令和6年11月1日)

おもな内容 ページ

随想	1
第18次研修事業計画策定	2
研修講座寸評	3～5
出前講座寸評	6
教育講演会	7～8
心に残る授業	9
ICT実技研修講座の紹介	9
研究室だより	10
お知らせ	11

本校では、子供たち一人一人の学力向上に向け、日々の授業改善を目指した研修活動の充実に加え、理科専科による授業や算数科における習熟度別学習指導・少人数指導を実施しています。特に、少人数指導については、全学年で計画的に行っており、担任や加配教員による子供たちの実態に合わせたきめ細かな指導とおして、子供たちが「できた」「分かった」を実感できるような実践が行われています。
(旭川市立啓明小学校)

随想

日日是好日



上川教育研修センター
所長 石前聖香

大河ドラマ「光る君へ」の世界観にすっかり魅了されています。

日曜の夜は、家族揃って大河ドラマを見るのが小学生からの習慣でした。また、漫画「あさきゆめみし」に夢中になったのは十代後半の頃からでしょうか。

恥ずかしながら文学少女にはほど遠く、テニスで真つ黒に日焼けした学生でしたが、身近にあった大河ドラマや漫画は、歴史に興味をもつきっかけとなりました。以来、「独眼竜政宗・龍馬伝・鎌倉殿の十三人」などを堪能しています。

三月、旧友から久しぶりの電話がありました。定年退職を機に小説を書き始め、ようやく完成、自費出版を決めたとのこと。作品は、徳川家康と同時代に実在した人物が主人公の短編小説です。

友人の故郷は三河。現在も地元で大切に保存されている史跡や史料から着想を得、博物館や史料館の方々の協力の下、丹念に史実を紐解き、執筆したそうです。学生の時から歴史に関心の高かった彼が、探究を続け、周囲の協力もあって夢の一つを実現したことは、何よりうれしい知らせでした。電話の先の弾む声から、一日一日を大切に過ごす心構えや人生の愉しみ方を教わった気がしました。

昭和から平成、令和と学び続けてきたであろう友の姿は、令和の日本型学校教育が目指す、自分のよさや可能性を認識するとともに他者と協働し豊かな人生を切り拓く姿に重なって見えます。いつの時代でも、生きる力の基盤は学び続けることにあるのかもしれない。

桜前線が北上を始めると、旅のキャッチフレーズ「そうだ〇〇へ行こう」が頭から離れず、学び直しの古都巡りを計画しました。

葵祭りがまもなく開催する時期。早朝の下鴨神社は、雅やかな雰囲気を纏いつつ、糺の森に静かに佇んでいます。宇治平等院は、千年の時を超え、平安貴族の栄華を当時の迫力そのままに映し出します。国宝の数々を鑑賞し、解説を拝聴するのも、実に趣深い時間でした。

紫式部や藤原氏ゆかりの地を歩き、抹茶ケーキでひと休み。友人の次回作を大いに期待しつつ、休憩とスイーツに偏りがちな我が学びの甘さを痛感です。

反省を生かすべく、動画配信で過去の大河ドラマを見直したり、自宅に並ぶ書籍を読み返したり、小さな感動や再発見を重ねる日々。なかなか気に入っていません。

二年生は、「総合的な学習の時間」で、職業体験学習に取り組んでいます。同窓会、CS協議会の協力のもと、一人の少人数で体験ができるよう、地域の多くの事業所に受け入れていただいています。生徒は、体験する仕事を希望した理由と抱負を明記した、自分の「履歴書」を各事業に提出し、真剣に体験活動を行っています。自分の生活や行動を見つめ直し、将来の進路選択を考える教育活動になっています。
(富良野市立富良野西中学校)



センター日誌

七月二十三日 研究室夏季集中研・研究協力校打合せ

七月三十日 夏季合同同員研修会

八月七日 上川教育研修センター組合議会

八月二十日 教育講演会

八月二十九・三十日 道研連研究発表大会(網走大会)

十月三日 研究協力校 研究授業

十月二十二日 研究協力校 研究授業

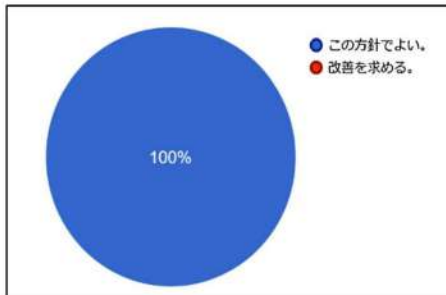
十一月一日 センターだより第一四八号発行

※毎週火曜日 定例研究室会議
※随時 研修講座講師打合せ会議

第18次研修事業計画策定に向けて

～アンケートへの御協力ありがとうございました～

I 基本方針の策定について



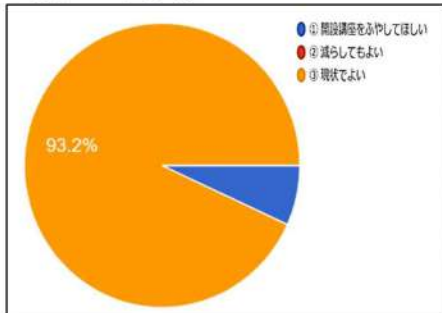
・100%の方から、「この方針でよい」と回答いただきました。

〈第18次研修事業計画の基本方針〉

- ① 教科指導等をはじめとした講座については、「小中合同、講義（夏季休業中）と研究授業（2学期）の分離開催」とした現在の講座形式を継続しつつ、内容の一層の充実を図る。
- ② 教職員の経験、職種に応じた講座を設定し、キャリアステージに基づく研修の場として必要な資質を中心に内容の充実を図る。
- ③ 学習指導要領の方向性や内容に合わせた講座内容の充実を図る。
- ④ 講座数や内容については毎年見直しをかける
- ⑤ 学校（地域）や教育研究団体等のニーズに応える「出前講座」の充実を図る。

II 開設講座について

○講座の開設数について



・93.2%の方から、「現状でよい」とする回答をいただきました。

◎生徒指導に関わる講座について

6月に実施された「学級経営と教育相談」では、生徒指導提要改訂の解説の中で不登校対応や、LGBTQ、ヤングケアラーなど様々な背景や事情を抱えた児童生徒への対応や構成的エンカウンターなどを扱いました。今後も生徒指導に関わる諸問題について、現場のニーズや教育動向を踏まえて内容を決定していきます。

◎講座のオンライン化について

研修センターで実施される講座は参集型で行うことを基本とします。（教育講演会やセンター研究発表会でのオンライン配信は継続します。）

III ICT 実技研修について

○新設してほしい ICT 講座について

- 授業・校務のためのAI活用
- 幼児教育におけるICT活用研修
- ロイロノートやクラスルーム・ミライシードなどの活用方法を学べる講座
- canva等のデザインツールの効果的な活用

◎ICTの活用は授業づくりや校務を行う上で必要不可欠になっています。センターでは受講者の方の声や近年の動向をもとに、講座内容の策定に取り組んでまいります。

IV 講座全般にかかわる御要望など

- キャリアステージに応じた研修を通して、教職員一人ひとりが自己実現と職能の向上を図ることかできるよう、学校としても、積極的な受講を奨励してまいります。
- 新たな研修制度が始まり、研修センター講座の必要性は高まっています。これからも教職員のニーズに合う講座を開設していただければと思っております。
- 出前講座の積極的活用を考えています。各学校で分かりやすく利用しやすい形で周知していただけると幸いです。
- Web環境の充実を図り、更に受講しやすい環境を整えていただければと思います。

学校・各団体併せて117通の御回答をいただきました。御多用のなか、御協力いただき心からお礼申し上げます。お寄せいただいた貴重な御意見を参考にさせていただき、第18次の基本構想と講座計画の詳細を作成します。今後とも、当センターに対する御意見や御要望をお寄せください。

1 学校経営 6/4 (火)

研修講座寸評

受講者の感想から



- ・今求められる学校経営についてのご指導を、とてもよいタイミングで受けることができました。同じ目線で管内の校長先生と語り合えた協議は安心感とともに新しい考えを得ることができたと感じています。自信をもって方向性を示せる学びの機会となりました。感謝しています。
- ・学校経営を行うにあたって求められることについて、様々な視点から教えていただきました。また、他校の先生方と情報交換できたこともとても有意義でした。ありがとうございました。

○講師

三浦 一路 (上川教育局 義務教育指導監)
 高野 拓実 (朝日小 校長)
 澤田 匡史 (愛宕東小 校長)
 上原 大岳 (東光中 校長)
 千葉 良彦 (富良野西中 校長)

2 特別支援教育 6/13 (木)・7/2 (火)

○講師

宮越 けんじ (旭川市教育委員会 特別支援教育専門員)
 五十嵐 路子 (永山西小 教諭)
 玉置 由香 (広陵中 教諭)

- ・特別支援教育の考え方を改めて学ぶことができました。教育活動の根幹に特別支援の視点が大事だということがわかりました。また、他校での実践や実情などに触れることができたのもよかったです。
- ・現場の先生の声が聞けて非常によかったです。大学で学んだことの実践が聞けて、自分の学んだことが現場で活用されていることや現場の先生がどんなことで悩んでいるのかを知ることができたことはこれから教員を目指すにあたりよい経験になりました。



4 学級経営と教育相談 6/19 (水)

○講師

小野 晴子 (北海道立教育研究所 主査)
 千葉 道子 (北海道立教育研究所 研究研修主事)

- ・生徒指導の仕方を細かく教えてもらうことがなかったため、とても勉強になりました。自分の学生時代とは違って、「支える」指導だということがわかったので明日から実践していきたいと思います。ロールプレイを通して、子供たち側の目線に立つことができたからです。4月に初めて担任をもって自分のことではいっばいっばいになってしまい、子供たちの目線に立てていなかったことに気づくことができました。
- ・生徒指導提要进行をより深く読みたいと思いました。講座自体で学んだことも大きいですが、資料の中に参考文献等がわかりやすい形で記載されているので、自校に戻ってから、修養に努めたいと思います。



5 読書活動 6/26 (水)

○講師

千葉 昌之 (永山西小 校長)
 高橋 誠 (西神楽小 教諭)

- ・子供たちに本を読むことの喜びを感じさせるにはどうしたらよいかを教えて頂き参考になりました。千葉先生の講義がとてもおもしろく、ひきこまれました。中学校の生徒に読み聞かせることは無いですが、アニメーションなど初めて知る取組もあり面白いなと思いました。
- ・ブックトークを通して、伝える力、聞く力、選書する力を養うことができる授業を見せていただきました。その中で、学校司書として、「どこまで踏み込めるのか」、または「見守るのか」、その学級の状況を担任の先生と話し合いながら、連携して進めていくことが大切だと感じました。



6 複式教育 7/3 (水)

○講師

林 貴史 (上川教育局 指導主事)
太田 麻由 (雨紛小 教諭)

・複式形態授業で、一年後にどうなっているべきか、子供たちの姿を想像しながら共有することで、具体的に交流することができてよかったです。

・複式のわたりずらしの手法を実際に参観できて、大変勉強になりました。ICTの活用方法も大変参考になりました。

・ICTの取組や複式授業の参観ができて参考になりました。



7 幼保小連携教育 7/24 (水)

○講師

野上 大輔 (北海道教育大学 附属旭川幼稚園副園長)
蒔田 和樹 (上川教育局 主任指導主事)

・多くの職種の方と、ざつくばらんに沢山のお話ができました。

・特に、本音を出し合えて楽しかったです。入学したお子さんの園での様子を聞きました。また、お二人の講師の先生方のお話がとても分かりやすく、スタートカリキュラムについても、アツプデートできました。

・それぞれの立場が違っても子供に向けた思いは同じであり、大人同士の関わりを含めよりよい連携のやり方、具体的な方法を知りたいと考えていることを交流の場で強く感じました。



8 道徳科指導 7/25 (木)・9/3 (火)

○講師

水上 丈実 (北海道教育大学 旭川校 講師)
関山 雅人 (向陵小 教諭)
只石 良太 (旭川中 教諭)

・道徳教育の基本的なことから、専門的なことまで学ぶことができました。また、受講された先生方の実践や悩みを通して学ぶことも多く、大変有意義な時間になりました。ありがとうございます。

・小中二人の先生の授業を見させていただき、学びの多い時間となりました。特に、中学校では、価値理解の時間が短くシミュレーションを実施することや他者理解をはかるといふ普段は見ることができない授業内容でした。その中で、小学校段階ではしっかりと価値理解をさせることの大切さを感じたので、今後に生かしていきたいです。



9 国語科指導 7/26 (金)・9/10 (火)

○講師

蒔田 和樹 (上川教育局 主任指導主事)
山本 憂祐 (知新小 教諭)
磯尾 隼人 (東光中 教諭)

・国語科において、専門的な意見を聞くことができました。中学校と小学校の前提の違いや指す子供像の違いなど、交流することができ、多くを学ぶことができました。また、中学校の国語専門の先生と交流することで、考えの及んでいない部分を知ることができ、今後の授業の参考になりました。

・学習指導要領を押さえておけば、シンプルに創意工夫できるベシクな授業作りの大切さを学びました。小学校においては、やはり学級経営と授業のフォーマットの積み重ねが児童の育ちにも授業に置いても大きな土台になるので、明日の学びをたくさん得ることができました。



11 学校事務実務 7/31(水)

○講師

長谷川 功 (公立学校共済組合
北海道支部 資格認定係長)
高橋 千穂 (公立学校共済組合
北海道支部 資格認定係主事)
笹木 美里 (北鎮小 事務職員)
佐藤 美優 (大有小 事務職員)
小海 紘尚 (神楽小 事務職員)
木村 達也 (永山中 事務職員)
上田 桂司 (南富良野西小 事務職員)
小川 真広 (上富良野小 事務職員)
戸田 千紘 (富良野小 事務職員)

・協議会の異なる地域(旭川と上川)の学校事務のすすめ方、研修のあり方を学ぶことができた。講義では貴重な資料を提示いただき、共済事務について基礎的かつ重要な手続きを学ぶことができました。
・共済資料のマニュアルにテキストボックスを設けて詳しい解説が記載されており、大変有効な資料だと感じました。



15 令和の日本型学校教育 8/6(火)

○講師

吉田 昌広 (北海道教育大学旭川校
学校臨床教授)

・校内研修のあり方について、令和の日本型学校教育で児童生徒に求められている力を教員の校内研修に当てはめて考えていくことや、各校の取組についての交流が大変参考になりました。ありがとうございました。
・吉田先生の講話によって今日の教育の動向を学ぶとともに、他校の先生方との情報交流によって共通の悩みを共有したり、解決の方向性をともに考えられたのが大きな収穫でした。

16 学校と地域の連携・協働 8/19(月)

○講師

田阪 直也 (上川教育局
社会教育指導班主査)
藤田 泰昭 (士別南小 校長)

・児童生徒が保護者や先生以外の大人にどれだけ出逢い、そこからいろいろな刺激を得て成長していくことの大切さを改めて学びました。
・学校と地域が協働・連携を進めていく上で、主語を「子供」にすることでスムーズに流れを生み出すことができるのではないかと感じました。取組を進めて行くためにはそれなりの労力を伴うが、主語が「子供」であれば、その労力もまた違ったものになると考えました。



18 学校保健 9/3(火)

○講師

池田 暁 (旭川市教育委員会
主査)

・同じ悩みをもつ先生方と意見や考えを共有することができたり、自分では気づけなかった視点に触れることで、明日からの子供たちとの関わりに生かしていきたいと思えました。
・最新の情報(通知、通達含む)を教えていただき、やはり年に一度受けることに意味があると思えました。また、交流では規模や年齢が似ている先生とも違う先生とも話すことができ、自分にはなかった視点に気付くことができました。



出前講座寸評

美瑛東小「今日的な教育課題」6/6(木)



【講師：因幡 明浩(新富小 教諭)】
 子供が自分の思いや考えをもち、主体的に学習に取り組む授業づくりにおけるポイントについて、実践事例を挙げながら具体的に示していただきました。身に付けさせたい資質・能力を明確にした単元ゴールを設定し、見通しをもって1単位時間の課題を設定する必要性について、学ぶことができました。御指導ありがとうございました。
 (美瑛東小 相澤 正一)

神楽岡小「ICTの活用」5/30(木)



【講師：石田 直也
 (西御料地小 主幹教諭)】
 子供の主体的な学びにつながる複線型の授業づくりについて、様々な実践例をもとに具体的に教えていただきました。「明日から試してみたい」ICTの活用方法もたくさん紹介していただきましたので、授業づくりを生かして行きたいと思えます。御指導ありがとうございました。
 (神楽岡小 松田 優菜)

東神楽中「ICTの活用」6/11(火)



【講師：北村 裕美(緑が丘中 教諭)】
 上川教育研修センター出前講座を、校内研修として教職員全員で学ぶことができ、実りの多い時間となりました。本校の研究主題の副題として掲げております「協働的な学びを促すICT機器の活用」について、研修を深め、指導力の向上を図ることができました。「校務DX」において、スプレッドシートやGoogle Earthの便利な活用方法、そして授業改善においては、共同編集について学ぶことができました。教わったことを、学校生活に還元させ、今後も研鑽を積んでいきたいと思えます。御指導ありがとうございました。
 (東神楽中 西森 加奈)

旭川第3小「教科等指導(個別最適な学び)」6/7(金)



【講師：因幡 明浩(新富小 教諭)】
 「個別最適な学びを実現する学習展開」について実践例を通して皆さんの視点を提示していただきました。単元をデザインし、子供と共有していくことの重要性和しさを学びました。その際には、どれだけ子供の実態を捉えているかが大切になると思いました。日々の実践を見直すきっかけを与えていただき感謝しています。御指導ありがとうございました。
 (旭川第3小 小関 麻衣子)

上教研北部地区「教科等指導(個別最適・協働的な学び)」6/12(水)



【講師：早川 裕章(忠和申 教諭)】
 最近、「個別最適な学び」などの言葉を意識するあまり、授業づくりが迷走していました。今回、早川先生のお話を聞き、生徒をワクワクさせる、全生徒を救いたい、わからないと言えぬ風土、などのすぐく大切なことに立ち返ることができました。学んだことを今後の授業づくりを生かしていきます。ありがとうございました。
 (剣淵中 村田 美穂)

上教研中部地区「教科等指導(算数・数学)」6/12(水)



【講師：三村 仁(神楽小 教諭)】
 講師の神楽小学校の三村先生から、「算数・数学教育に求められる授業づくり」との演題で、講義をしてくれました。現在の理論をもとにした日々の実践をICT機器を使いたいへんわかりやすく説明いただきました。お話の冒頭にあった、今までの授業を変えるという私達教師側の意識改革がまず大切だと思います。この度の講座は、身近なことからの気付きと日々の実践が大切だと思います。講師の先生ありがとうございました。
 (上川中 虻川 謙)

台場小「各種実技指導(木版画)」6/27(木)



【講師：米澤 晶子(神居小 教諭)】
 木版画の学習の流れ、指導の仕方はもちろん題材の選び方や刷り方のコツを教えてくださいいただき大変参考になりました。今回の講義で学んだことを、実践に活かしていきたいと思えます。お忙しいなか御指導ありがとうございました。
 (台場小 伊藤 彩絵)

嵐山小中「ICTの活用」6/26(水)



【講師：石本 周司(東川小 教諭)】
 ICTを活用して校務を効率化することの大切さを具体例を挙げながら教えていただき、すぐに実行してみました。準備時間が短縮されてとても助かりました。また、子供たちが楽しみながら取り組めるアプリやWebサービスを教えていただいたので、早速取り入れていきたいと思えます。御指導ありがとうございました。
 (嵐山小中 戸田 七重)

上川教育研修センター 教育講演会 概略



演題 「令和の日本型学校教育を考える

～主体的、対話的で深い学びの実現～

講師 北海道教育大学附属函館中学校 副校長 黒田 諭 氏

(元：文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター研究開発部 学力調査官兼教育課程調査官)

★教育界を取り巻く現状

現行の学習指導要領は全ての教科において育成を求め、力を「資質・能力」という言葉で表しています。

資質能力を三つの柱「知識及び技能」・「思考力・判断力・表現力等」・「学びに向かう力、人間性等」で整理し、この三つの柱を元に指導していくこととなります。主体的・対話的で深い学びの「深い学び」の鍵として各教科ごとに設定されている見方・考え方を働かせることが重要です。学習指導要領に基づいて作成された教育課程は、学校内で完結するのではなく、地域に広く公表したり、家庭や地域の人材を活用しながら実践したりしていくという「社会に開かれた教育課程」という考え方が大切です。学習指導要領に示されている情報活用能力に注目して「Society 5.0」「PISA 2018」「GIGASKool構想」「令和の日本型学校教育」などについて、それぞれ内容を見ていくと今の教育界を取り巻く現状がより見えてきます。

★指導と評価について

授業を「プレゼントの箱」に見立ててみます。箱には主体的・対話的・深い学びの三つのリボンがかけられているとします。見栄えの良いきれいなリボンをかけたとしてもきちんとした中身（資質・能力）が入っていないと授業の構成としてはよくないということです。令和の日本型学校教育を考える際には、それぞれの教科で子供たちにどんな資質・能力を身に付けさせるべきかを中心に考えていく必要があります。

(一) 指導と評価の一体化について

国立教育政策研究所では、指導と評価の一体化については次の三点が大事であると述べています。一点目は教師の指導改善につながるものにしていくこと。二点目は児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと。三点目は慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直しを図っていくことです。

例えば、定期テストによる評価のみを取り扱うのではなく、話し合いの場面や成果物などの学習過程も含めて評価する必要があります。「知識・技能」及び「思考・判断・表現」の評価の記録については、原則として単元や題材などのまとまりごとに、それぞれの目標達成状況が把握できる段階で評価を行うこととなります。これはいわゆる「記録に残す評価」です。

また、単元の初めや途中で子供たちの状況を把握し、これを教師の指導改善や子供たちの学習改善につなげていくことも重要です。これがいわゆる「指導に生かす評価」です。

「記録に残す評価」の方法ですが、例えば三時間の授業があったとしましょう。一時間目と二時間目・三時間目で同じ知識及び技能のもとでの学習

内容を分散して指導したとしたら、評価を出す際は平均してもよいかもしれません。ところが、一時間目で行った結果を踏まえて、授業改善を施し、進化させて、二時間目、三時間目で更に学びが深まっている場合は三時間目のゴールにあたる箇所を評価に入れます。「記録に残す評価」は、最終的な子供の姿を記録してあげないとフェアではありません。

(二) 主体的に取り組む態度の評価について

主体的に取り組む態度の評価は、挙手の回数やノートの取り方などの形式的な活動ではなく、知識及び技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力を身に着けたりするために粘り強く、試行錯誤しながら、学習の自己調整を図る姿を評価することとしています。

「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点に関わる学習状況と照らし合わせながら評価を行うことから、主体的に取り組む態度の評価は、知識・技能もしくは、思考・判断・表現と関連付けながら評価していくこととなります。

具体的には、授業と授業の間の見通しの場面を活用する方法があります。

例えば、「走れメロス」を読んで、印象に残った人物を選び、特に気になった言動の意味を考える授業を展開したとしましょう。

生徒がメロスのあるセリフに着目しながら考察を進めていたが、単元の中盤や後半になるにしたがい、最初の時間で考えた考察では足りず、他の登場人物の発した言葉からメロスの心情に迫っているという方法で自分の学習を深めていっている場合は、自己調整や粘り強さを評価の一部にしていくことが可能です。

授業内で見取る方法以外にも、定期テストの振り返りを用いる方法があります。

例えば、子供たちに、自分の答えと正答を比較させながら、思考の過程を振り返り、それをシートに書かせる方法があります。自分の解答を分析し、正しい解答を導いていけば「おおむね満足できる」状況（B）と判断します。さらに補充学習に自分が取り上げた言葉の意味を確かめ、自分の言葉でまとめ直すなどの学習の深化が見られるものを「十分満足できる」状況（A）と判断します。ただ、この振り返りのみで、この単元の主体的に学習に取り組む態度の評価とするのではなく、言語活動を通して子供の姿とあわせて行うといった視点をもつことが大切です。

B評価の子をA評価に上げることについては、成果物とかテストの点数による評価に加え、設定した評価規準に則った上で、速やかさ、丁寧さ、集団への寄与、興味への広がり、応用・活用などの要素も考慮することが肝要です。

★我が国のCBTの現状について

文部科学省がMEXCBT（メクビット）と呼ばれる公的プラットフォームを整備しています。全国学力・学習状況調査をMEXCBTを用いて、将来実施していく方針を国が定めました。

技術的なものが影響し、全国同日一斉ではなく、一定期間内で実施します。そのため、問題漏洩の可能性があるので、複数の問題を用意して取り組ませます。違う問題を取り組んでも結果として出てくるものは統計的に差がないIRTという考え方を用いることになります。

令和七年度に、小学校国語・算数・理科・中学校

国語・数学はこれまで通りPBTで実施し、中学校理科のみCBTを四日間に分散して追加する予定です。実施する際には色々な課題が出てくると思います。令和八年度には英語を実施する予定です。今年度の秋にも正式決定します。また、令和九年度以降すべての教科でPBTを廃止してオンラインにする方針になっています。

この調査では子供たちのコンピューター操作に係る技能も大切です。文部科学省が発出している資料の中に四つのことが示されています。一点目は長文の課題文をスクロールして読む。二点目はキーボードで解答入力。三点目は複数の画面で課題文を提示。四点目はマウスによる解答選択、ドラッグ&ドロップ操作で画面上の選択肢を動かして解答するというものです。

PISAも同じプラットフォームを使っているので、公表されている問題を見るとイメージがもてるはず。また、普段の授業で行っている小テストなどをCBT化していくことも効果的です。

例えば、Google Formsを用いて小テストを作成し、CBT化することで、キーボードで解答を入力したり、マウスで解答を選択したりすることなどへの子供たちの抵抗感をやわらげることが期待できます。また、問題作成や振り返りの教材作成も省力化され、先生方の働き方改革につながることも期待できます。

フィードバック機能や問題をレベルに応じて選択できるようなCBTを搭載していけば、紙でレベル別の問題を配布するような煩雑さも回避した状態で、割とコストダウンしながら個別最適な学びに働かせることができるのではないかと考えます。

MEXCBTに搭載された北海道チャレンジテストに積極的に取り組むことが、全国学力テスト

のCBT化に対応するための一助になるかもしれません。

★まとめ

誰かの実践例とか、上澄みだけの見栄えのいいものを真似しようとするのではなく、それらを咀嚼して、自分で理解した上で授業に生かしていくような先生で在り続けてほしいと思います。

また、業者テストのみを活用するのではなく、必要性・妥当性が見られた場合には、子供たちの実態に合わせて、自作の評価問題を作成したり、もしくはMEXCBTから問題を探し出し、取り組ませることが大切です。

一見、仕事が増えるように見えますが、ICTを活用すると負担感は無くなってくると思われ、国全体でも、色々なICTを活用した取組がホームページに公表されていますので是非ご覧になって日々の教育実践に生かしてください。



心に残る授業

その90



上川教育局義務教育
指導班主任指導主事
蒔田和樹

「特別の教科 道徳」（以下、道徳科）の全面实施から、小学校で七年目、中学校で六年目を迎え、この間、各学校では、「考え、議論する道徳」への質的転換に向けた道徳科の授業改善が推進されました。

道教委では今年度、「よりよい生き方を実践する力を育む道徳教育の推進事業」において、道外の道徳教育の先進校の視察を行いました。本稿では、私が視察した埼玉県幸手市立幸手中学校の授業を紹介したいと思います。

幸手市は、平成二十七年から道徳教育研究推進モデル校の指定を受け、市全体で道徳教育に力を入れており、幸手中学校では、校務分掌に「道徳部」が位置付けられるなど、組織的に道徳科の授業改善が進められています。

当日は、道徳教育推進教師による道徳科の授業を公開していただきました。

先進校の授業に、何か特別な仕掛けを期待していたところですが、授業の展開はいたってシンプルな構成であり、それでも生徒は教師の発問に真剣に考えを巡らせ、次から次に自分の考えを述べ、教師は、生徒の言葉を受け止め、つないだり、全体に返したりしながら授業が進みます。

学習指導案の「想定される生徒の発言」にない発言も多く、「授業のねらいに迫れるのか？」と不安に思いましたが、授業者は見事に授業をコントロールし、授業を終えました。

授業後の協議でも、その点が話題となりましたが、授業者からは、「明確なねらいをもっていれば、生徒からどんな発言が出てきても大丈夫です」と力強い言葉がありました。

幸手中学校では、内容項目や生徒の実態、主発問等をワンペーパーに記した「プランニングシート」を活用した授業づくりが行われており、全ての教師がねらいを明確にした授業を行うのに役立っています。

今回の視察は、特別なテクニックではなく、「ねらいを明確にした授業づくり」の大切さを再認識する機会となりました。

ICT実技研修講座レポート

様々な分野でICTの活用が急速に進む中、教育現場ではオンライン授業への対応、デジタル教材の活用、インタラクティブな学習を可能にするツールとしての活用、また、個に応じた学習指導の実現等、様々な目的やニーズにICTを活用して柔軟に対応していくことが求められています。当センターのICT実技研修講座では、そのような教育現場のニーズに対応すべく、授業や校務での効果的なICT機器の活用を目的とした7講座(各講座2回ずつ、計14回実施、全講座半日日程で実施)を開講しています。

エクセルに関する講座は、「初級編」「中級編」「クラウド活用編」の3講座を開講しています。「初級編」では、初歩的な数式や関数の使い方など、「中級編」では、COUNTIF関数やVLOOKUP、関数等の使い方など、「クラウド活用編」では、アンケート等で広く使われるGoogleFormsによるアンケートの作成や、集めたデータをエクセルやスプレッドシートで集計、分析などの内容となっています。



プログラミング教育に関する講座は、小学校プログラミング教育について、その目的やプログラミング的思考等の理論研修、Viscuit、Scratchやmicro:bitの操作の仕方や授業での活用方法などについて学習する内容となっています。

タブレットPCに関する講座は3講座を開講しています。「入門編」は、タブレットの基本的な操作方法や教育アプリの使い方など、「授業活用編」は、複線型授業に向けてのICTの活用方法やAIの利活用の仕方など、「校務活用編」は、校務に焦点を当て、GoogleDriveの活用方法や学校ポータルサイトの開設方法など、どの講座も実践的ですぐに活用できる内容となっています。今後益々タブレットPCの有効活用が期待されておりますので、より多くの先生方に御活用いただければ幸いです。

なお、ICT実技研修講座とは別に、当センターの出前講座でもICTをテーマにした講座を実施しています。次年度もたくさんのお申込みをお待ちしています。

「求められる資質・能力を育む学習指導の在り方」 ～子どもを主語にした主体的・対話的で深い学びの実現を目指して～

センター発表会 I の紹介と振り返り
第3学年 理科「進化」 授業者：荒木健地（北門中）

完全版の指導案や
各種資料はこちら！



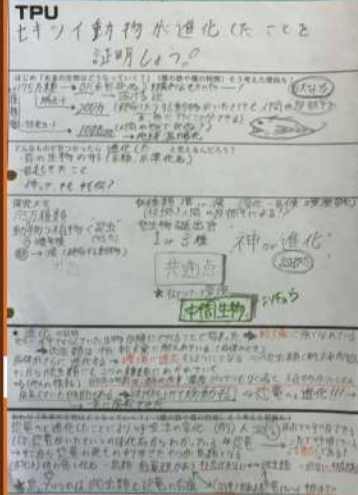
	研究内容	予想される生徒の思考	教師の手立て	知	思
1	I (1) 課題設定	課題設定のプロセス 「これから先種類は増える？減る？」 「現在まで種類はどう変化したの？」 「進化によって新しい種ができたの？」	・未来の生物の状況を予想することをきっかけに、現在生じたかを想		
	I (1) 目指すべき姿・学習過程のイメージ	単元の課題 セキツイ動物が進化をしたことを証明しよう。 単元の見直し共有のプロセス 「進化をくり返すことでセキツイ動物は今みたいに多くの種類が生まれたんだと思うけど、何を調べたらそれを証明できるだろう？」 「1人で調べて証明できるかな？」	・セキツイ動物のために必要な根拠（骨格や骨格等）や探究グループの過程と		
2・3	I (2) 「何を学ぶか」「どのように学ぶか」自己選択	課題追求のプロセス 「現代のセキツイ動物の共通点・相違点を調べたら体が変化してきたことがわかるかも」 「生物が生息してきた環境って今と同じなのかな？」 「化石の年代や順番からわかるかも」	・班の中で、グループ ・セキツイ動物の資料を多く含め、生徒とを調べ、		
4		単元のまとめに向かうプロセス 「学習してきたことを班で交流するぞ」 「生物に共通する骨格や化石の年代とその当時の環境との関係から進化がおこったことが証明できそうだ！」	・それぞれのグループや学級（進め方）を発表し、それのまとめを		
		単元のまとめ（記述例） 現在のセキツイ動物の骨格に共通する部分があること、ハチュウ類と鳥類それぞれの特徴をもったウ類が進化してきたことが言える。			
5	I (3) 既習事項との関わり、自己変容把握のための振り返り	選択・判断のプロセス 「植物はどうだろう」 「1億年後はどうなっているだろう」 「今回みんなでいろいろ方法で調べてみたけど、次はどうしよう」 単元の振り返り（記述例） この地球にたくさんの種類の生物がいるのは環境に合っていることを知った。骨格などを調べると今の姿は違っても、 がわかった。どの生物も環境の変化に合わせて体を変化させているの話を聞いて、より進化について詳しく理解できた。	・相同器官など ・学んだことを進化を予想させ ・単元全体を通して振り返らせ		

「生物は本当に進化したのか」という大きくくりな問いをもつことで、生徒が進化の証拠を見つけていくという単元の見直しとゴールを明確化して探究を進めることができました。

進化の証拠ごとに3つのエキスパートチームに分かれ、探究活動を行いました。興味関心に応じて学習内容を選択することで、より意欲的に学習を進めることができました。また、学習に当たっても、動物園からお借りした骨格標本や教員からもらった資料、インターネットの情報などを取捨選択し、証拠探しや整理を行いました。同じ題材でも生徒それぞれが独自の視点を持ち、個性化を図ることができました。

別々のことを探究してきたからこそ、それぞれの視点の違いから新しい気づきが生まれたり、お互いの考えを結びつけたりする姿が見られました。さらに、疑問点を交流したり、情報の正確さについての議論も見られました。一方で、「それぞれがまとめた進化の証拠をつなげる」という活動の意図が伝わりきらず、個々の進化の証拠を関連づけながら、より深い気づきにつなげることにについては今一歩でした。発問の吟味や必要に応じて全体での中間交流が必要だと感じました。

今日の学びと自分の学びとのつながり	今日の学びとこれまでの学びとのつながり
生物がどのように誕生してここまで進化していったのかわかる視点から考えることができた。猿は何が進化したもののなか気になる！未来の生物はどうなっていくのか？というテーマに対して学級で自分と似ている意見も、全	これまでは社会の時間に猿人、原人、新人、などと勉強してきたけれど、今回は猿は何が進化してできたのかをみんなで協力して調べていくのですごく楽しみ！
進化したということが出来るための共通点を班でたくさん見つけることができた。進化したと言えるためには共通点だけでなく相違点も見つけることが重要だと学んだ。ハチュウ類から鳥類に進化する中間の生き物を、骨格や遺伝子、見た目などに着目して見つけ	染色体の中には遺伝子が含まれていて染色体の数は各生物で異なるため、染色体の数や遺伝子が似ていることによって進化したと言えるんじゃないかと思った。遺伝子が似ていると形質も似ると思うからサルとヒトの見た目も似ているのかも？
↑単元を通して5つの視点で振り返りを行いました。	今までは見た目が鳥類だと鳥類だと勝手に決めていたけれど、実際に鳥類と爬虫類の中間の生物について調べて、知ることができたのでよかったと思う。爬虫類と鳥類の中間の生物がいるなら、爬虫類と哺乳類の中間の生物もいるのかな？



単元を通して活用した
1枚ポータルフォリオ

6月18日(火)センター研究発表会！

研究員の荒木健地教諭の公開授業が、旭川市立北門中学校で行われました。



【 上川教育研修センター 受講後調査のお願い 】

当研修センターでは、研修成果を推し測り、次年度の事業計画策定の参考とするため、一定期間をおいてアンケート調査（受講後調査）をお願いしています。趣旨を御理解の上、御協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

なお、受講後調査の御回答に当たっては、当研修センターWebサイト上で入力してください。右の2次元コードをスマートフォン等でスキャンして回答することもできます。

<http://kami-cen.hs.plala.or.jp/>



各種資料の御活用を！

当研修センターの1階には、各種教育雑誌を、3階には、道内はもちろん全国各地の教育関係広報紙や研究紀要、教育雑誌のバックナンバーなどを保管しています。蔵書資料は貸出しも行っていきますので、ぜひ御活用ください。

なお、所蔵資料リストは当センターWebサイトからも御覧いただけます。



退任の御挨拶

十月十三日付をもちまして、上川教育研修センター所長を退職いたしました。

所長在任中は、公私にわたり格別なる御温情と御支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

今後とも一層の御指導と御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

前所長 伊東 義晃

就任の御挨拶

十月十四日付をもちまして、上川教育研修センター所長を命ぜられました。

もとより微力ではございますが、最善の努力を尽くす所在でございますので、前所長同様格別の御指導と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

所長 石前 聖香

発行日 令和六年十一月一日

発行 上川教育研修センター

〒077-0100 旭川市六条通四丁目

旭川市六条通四丁目

電話(〇一六六)

二四―二五〇一

責任者 石前 聖香